

# 平成 30 年度 学校評価

クラーク記念国際高等学校

## 1 重点目標

- (1) 基礎学力の確実な定着を図り、生徒の学習意欲を育む。
- (2) 生徒一人ひとりの進路希望の実現を目指す。
- (3) 生徒一人ひとりの気持ちに寄り添う決め細やかな生活指導を目指す。
- (4) 関係法令やガイドラインについて、連携施設との共通理解を進める。

## 2 自己評価

評価項目	自己評価
学習指導	<p>○義務教育範囲の学び直しについて、90%以上の生徒が9月までに目標を達成した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・週5日登校する1年生の90%以上が9月末時点で中学校範囲の学び直しを終えることができた。入学前教材「First Step」を「基礎学力オールチェック」教材と連動させたこと及び單元ごとの解説動画をWEBで視聴できるようにした結果と考える。</li></ul> <p>○高校の基礎学力養成について、生徒の苦手克服と学習進度の確保に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・英語、数学、国語の「アチーブメントテスト」を年間3回実施した。苦手単元復習用にWEB教材に紐付けした帳票を生徒に返却し、長期休業を利用して克服できるように改善した。その結果、各キャンパスの学習進度の確保も進んだ。</li></ul> <p>○進学に向けた学力養成について、C段階以上の割合が増加した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「ベネッセ基礎力診断テスト」の結果、2年次生（平成29年度入学生）のC段階（大学推薦入試を活用して合格できる可能性あり）以上の割合が4.5%増加し34%を超えた。基礎学力の養成に力点を置いた指導の効果が徐々に表れてきたと考える。</li></ul>
学習指導における改善方策	<ul style="list-style-type: none"><li>◇「高校生のための学びの基礎診断（英・数・国）」導入の経緯に鑑み、基礎学力の定着を確実に行う。</li><li>◇WEB教材を有効活用するため、教職員一人ひとりの意識改革を促す取組を進める。</li></ul>

評価項目	自己評価
進路指導	<p>○3年次生の進路満足度が上昇した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週5日登校する3年生の「進路指導満足度」及び「進路先満足度」を調査した結果、「満足」の割合がそれぞれ85%、76%となり、前年と比べそれぞれ2%増加した。</li> <li>同様に、週に数日登校するコース生の調査結果もそれぞれ87%、77%となり前年比2~3%上昇した。</li> </ul> <p>○WEBキャンパス上に定期的に「進路指導通信」を発行した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅生アンケートでは、「十分な進路指導を受けていない」と回答した割合が前年の50%から35%に減少させることができた。</li> </ul> <p>○本校において、インターンシップが定着した。</p> <p>本校において、地域の理解と協力を得て、インターンシップを軌道に乗せることができた。加えて地元企業に採用される生徒数も増加傾向にある</p>
進路指導における改善方策	<p>「進路指導マニュアル」を作成し、各キャンパスにおける進路指導の向上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇WEBキャンパス上に「進路指導通信」を継続発行するなどして、在宅生に対する進路指導の充実を図る。</li> <li>◇インターンシップの取組の共通理解を図る。</li> </ul>
生活指導	<p>○欠席や遅刻に速やかに対応した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国5地区ごとに週5日通学する生徒の平均出席率の動向を分析し、生徒指導部会から当該地区担当並びにキャンパスに助言と改善策を伝えた。(全国平均出席率85.2%)</li> <li>・出席率が低下する月には、あらかじめ生徒が主体となる行事を設定し、早めに個別面談時間を知らせるようにした。</li> <li>・出席状況をタブレットで一括管理し、特に不登校を経験している生徒には、学年全体でサポートする体制を整え、きめ細やかな対応を心がけた。</li> </ul> <p>○全ての生徒を対象に「いじめアンケート調査」を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携校を含め、全ての生徒を対象に調査を2回実施した。教職員の理解が深まり、いじめ初期段階での対応が進んでいる。</li> </ul>
生活指導における改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇生徒一人ひとりに対するきめ細やかなサポートを推進する。</li> <li>◇今日的な課題である「いじめの解消」について研修を深める。</li> <li>◇各キャンパスで実施されている生徒会活動、部活動、ボランティア活動等を集約し、その成果の共有を図る。</li> </ul>

評価項目	自己評価
組織運営	<p>○連携校との連絡会議を年2回実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国4会場（首都圏、中部東海、近畿・中四国、九州）で連携校との情報交換を行った。</li> </ul> <p>また、連携施設を前期・後期合わせて2回訪問し、ガイドラインの理解を深めるとともに課題の共有を図った。</p> <p>○教職員研修を計画通り実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理、授業力アップ及び学習心理支援カウンセラーの資格取得や6部会（教務、進路、生活指導、国際推進、広報、総務）ごとの研修などを年間計画に沿って実施した。</li> </ul>
組織運営における改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇連携施設における課題解決に向けた支援を強化する。</li> <li>◇各キャンパスにおけるOJTの充実を目指し、評価を実施する。</li> <li>◇授業力研修をアクティブラーニングやICT教育を加味した内容に改めていく。</li> </ul>